

町全体がチーム
新地コミュニティで
未来を切り開きたい

くろさわ ともこ 黒沢 知子

新地町教育委員会教育総務課 副主幹 兼 総務学校係長

昭和48年（1973）、相馬市生まれ。

1993年に新地町役場に入職。子育て支援が手厚い町で結婚し

4人の子どもたちを育てながら仕事を続けてきた。

企画振興課や都市計画課に長く勤務し、2020年4月より現職。

震災直後は子ども4人を本宮市に住む妹に預け、応急仮設住宅の担当として奔走。

新潟中越地震を経験された新潟県長岡市の職員の方から

「地域コミュニティを保った仮設入居が後々よい結果につながった」と

アドバイスをいただき、これを参考に仮設住宅の入居を進めました。

原発事故による町外からの避難者やペット可の仮設住宅も設け、

数年後には町が防災集団移転団地を造成。地域コミュニティを保った

集団移転が実現し、町外被災者の多くが町に定住してくれています。

JR 新地駅前では、公共施設や商業施設・住宅地など市街地の整備が進み、

LNGを活用して生産した熱と電気を駅周辺エリア内に供給するスマート

コミュニティが完成。また、海水浴場の再開など復旧・復興が進んでいます。

町民の方の理解が深まるように、「まちづくり新聞」なども発行しました。

震災後は町民が主体的にまちづくりに関わるようになり、商工会青年部による
復興夏まつりの継続開催など、地域が一つになって賑わいづくりが進んでいます。

気候が良く、人があたたかい新地町。愛着や誇りをもって町全体が

チームになることで、ピンチをチャンスに変え未来を切り開いていけることを
実感し、私自身も成長できた10年でした。



津波被害からの復旧事業を担当した新地町海釣り公園は
2019年に再開。多くの人が集まるスポットに